

京都大学神戸臨海実験所振興会
水族館月報

No.12

1953. 8月(9月3日)

8月末日を以て、振興会が水族館の運営を始めて以来満1年になる年度末ではないが、いまだ1年の収支のあらましを通観してみたい。

1年間の入場者数(有料).....	210,997人
1年間の観覧券売上金.....	3,819,380.00
1年間の雑収入.....	72,862.00
計	3,915,242.00

現在借入金.....	66,000.00
1年間の支出総額.....	3,979,294.00
8月31日現在 残金.....	4,948.00

しかし、借入金は災害時予備金を流用したものである。他に次の如き積立金がある。

	¥
ベースアップ資金.....	58,000.00
賞与資金.....	58,000.00
厚生資金.....	1,150.00
災害時予備金.....	577.00
会議費積立金.....	40,000.00
水族館借用料積立金.....	25,000.00
特別予備金.....	47,850.00
計	235,607.00

この中、会議費及び特別予備金を一般経費に借入れる事が出来ぬから、もし、9月の天候が思わしくなくても、何とか切り抜ける事は出来ると考えられる。

7月の大雨禍以来不通だった鉄道も23日に開通した。しかし、既に夏期休暇も終りに近づいていたので、客足も少く、1ヶ月の収入82,000円と言う最低の記録を上めた。幸い、以前から用意してお

いた災害時予備金を一時借用して維持したが、9月は委員会を中止して会議費を、また特別予備金を流用して操作する必要があらう。

最近京大水族館を観光施設であると考ふる立場から、

- (1) 水族館が観光協会のノ賃に加って全協会の費用の一端を分担する事。
- (2) 明光バス会社に切符の発売を委託し、会社に対して手数料を支払う事。
- (3) 番所山熱帯植物園株式会社との関係の緊密化を主張する声の一部にある。

しかし水族館は観光的価値は十分に持っているが社会教育施設であり、その故にこそ、数次の天災に文部省費を以て補修もされ、縣当局よりは事業税は勿論、入場税の免除を受けており、なお実験所費が、その勤務時間を、水族館及びその附属設備の維持改善のために割く事が出来るのであると言ふ立場が十分に理解出来る向もある。結局、問題は振興会がいかにか誠意を以て水族館の維持、改善に努力するかと言う事にかかっているわけで、この点に因しての認識が深まるにつれ、(1) — (3) の件も時間の問題として自ら解決されるであらうと期待されている。特に注意を以ておくのは、(2) の項に因して旅館側がある。これは旅館に入場希望の宿泊者に対して、旅館がノ種の責任証明書を発行し、お客はそれを持って入場し、月末に清算すると言う方法である。旅館側はこの手数料をお客へのサービスとし、水族館は月末に清算集金の労をお客へのサービスとすると言う事になるわけである。現在この方法を実行している所は数軒に過ぎないが、これがかなり普及すれば、事実上、旅館のお客さんは浴衣がけて何も持たずに水族館に入場出来る事になり、(2) の問題も早急に解決される事になるであらう。

30日、番所山植物園より、水族館陳列室出口に再び番人を置き、水族館出口よりの全園に対する入場許容方を申入状で

来た。これに対して「4月1日の委員会議決事項第3項が果されてない。現在の処置としては、この中入れをする前に、まず第3項の期限延長並に延長期間中における従前通りの処置を願出する必要があろう」と注意を喚起し、結局14日附を以て、第3項に関して1954年2月末日迄の期限延長並に延長期間中における従前通りの処置を願出で貰い、これを許容すると言う形で、観光客に不便さかけぬようにした。

博物館の老朽ぶりがますます酷くなり、遂に13日玄因の天井の漆喰が相当部分落ちるに至った。しかし、嬉しい事に



博物館陳列に見入る人達(山路安真撮)

は、入場者は思ったよりも多く水族館入場者の $\frac{1}{5}$ ~ $\frac{1}{4}$ は确实と推定される。博物館への標識を削除すれば、この数は更に増加するであろう。

—— 記事 ——

- ◎...3日 ...オサガメの剥製完成
- ◎...13日... 博物館前の池が始めて満水した。
- ◎...23日... 明光バス会社より連帯切符発売中止の通知があつた、但し旅館にある残部はそのまま使用するとの事。

同日新聞記者団が来所して、前記の(1) — (3) について質問があつ

た。これに対しての解答は7月25日朝日和歌山版を例にとると……
 ……「水族館はあくまで京大の学術研究実験のためのもので今
 まで民間団体に委託経営していたことが悪い。しかし現在白浜の
 観光に大いに役立っていることは認めているので快く内分を閉
 ざすのでなく、直営でやっても出来るだけ内容の充実改善に努
 力し、名実ともに日本一の水族館にしたいと思う。そうすること
 が観光客に喜んでもらう、白浜観光によりよくプラスになる
 と考えている。植物園と切り離すことは、水族館の教育施設
 とマッチしない点があるので別個にやってもらうためである
 とある。不本意の言葉も見られ、簡潔にしたために真意の通
 り難い箇所も見受けられるが、大意はこんな所であろう。

- ◎ ……水族館前の淡水池に入れてあった金魚を、備前山植物
 園に持込んでもらうと言う事を耳にしたので、同植物園に打
 し、
- (1) 観光協会が水族館の経営に当たっていた際に行った
 施設はいつでも好きな時に引き上げ得るとの考えを持っ
 ているのか
 - (2) 現実に引き上げた施設はどれどれか速かに明示し
 て欲しい。
 - (3) 引き上げられた後の対策もある関係上、引き上げるものは
 やがて当方が指示する期間内に処置して貰いたい。
 - (4) その後、改めて備前山植物園と水族館との間の相
 互便宜供与の比重を研討して、必要あれば従来の
 取次める改訂する事にしたい。

と申入れを行った。

◎ 7月の入場者数

水族館発売切符数

大人	2227	} 計 4137
小人	849	
団体	1061	

明光バス発売切符数

大人	1116	} 計 1211	} 合計 5348
小人	95		

(累計 90997)

無料入場者 327 (累計 698)

◎ 8月の収入

		(累計)
観覧券売上金	87,340.00	1,675,757.00
雑収入	85.00	85,953.00
7月1日の繰越	4,129.00	
借入金(災害時予備金)	66,000.00	
	<u>計</u>	<u>157,554.00</u>

◎ 8月の支出

一般経費

費目別	金額	累計	備考
人件費	55,388.00	255,198.00	
光熱費	6,739.00	35,136.00	
消耗品費	3,550.00	19,935.00	
備品費	—	15,045.00	
修理費	3,635.00	12,436.00	
材料費	4,130.00	54,565.00	
厚生費	230.00	2,450.00	
旅費	120.00	240.00	
諸税公課	—	48,043.00	
雑費	105.00	595.00	
通信運搬費	1,393.00	3,172.00	
契約金	—	115,300.00	
合計	75,290.00	667,615.00	

水族館設備改善費

項目	金額	累計	備考
便所建築費	—	170,480.00	
電話室設置	—	3,565.00	
花壇設置	—	6,460.00	
博物館公場 芝生園工事	—	36,575.00	
木竹カマ 標干費	—	40,000.00	
博物館公場 水磅設置	19,500.00	19,500.00	

博物館 出張費	13,160.00	13,160.00	
合計	32,660.00	289,740.00	

実験所改善費

費目別	金額	累計	備考
人件費	5,201.00	23,096.00	凡給費補助
印刷費	—	200,000.00	
備品費	—	123,100.00	
設備修理費	2,530.00	75,755.00	
特別費	—	—	
合計	7,731.00	421,951.00	

博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	6,925.00	26,175.00	
備品費	—	26,180.00	
修理費	—	6,208.00	
消耗品費	—	2,611.00	
旅費	—	240.00	
通信運搬費	—	40.00	
合計	6,925.00	61,454.00	

積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備考
ベースアップ資金	7,000.00		58,000.00	
賞与資金	7,000.00		58,000.00	
厚生資金	1,500.00		6,150.00	
災害時予備金	—	61,000.00	577.50	
会議費積立金	—		40,000.00	
水族館借入料積立金	—		25,000.00	
特別予備金	14,500.00		47,780.00	
合計	30,000.00	66,000.00	235,607.50	

支出合計

一般経費..... 75,290.00
 水族館設備改善費..... 32,660.00
 実験所改善費..... 7,731.00
 博物館費..... 6,925.00
 積立金..... 30,000.00

計 152,606.00

9月に繰越..... 4,940.00

◎ 7月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(17)	8	5	6
気温	27.0 - 29.0 27.7	26.7 - 29.4 27.4	23.8 - 30.0 26.0
水温	26.2 - 27.4 26.8	26.8 - 28.1 27.4	26.5 - 27.9 27.3

但し { 気温は南水槽室
 水温はNo.22水槽で10時に測定

◎ 7月の魚

水福以来白浜の町に客足が少いたため、漁船も獲物を持ってこの町に近寄り、我下ら物淋しい状態である。入場者が「珍しい」とか「面白い」とか発する言葉を聞く度に顔に汗する思いである。水温の上昇が昨年に比べていくらか進んでいると言うのも、美しい魚が獲れぬ原因の一つであろう。

- (1) アカウミガメ.....7月23日 日置より送られて来たものが2日死亡した。
- (2) アオウミガメ.....6月16日購入の小型のものは、当時から体の数ヶ所に外傷をもっていたが4日遂に死亡した。
- (3) マダコ.....7月28日、南館員が採集して来たマダコは重量250gあり、非常に元気であり餌につき、小魚まで食うようになっている。水槽のガラスを叩くと、体色を変え、腕を振って怒る様子が人々の興をひいている。このマダコへの給餌は、特に南館員が、自身で適量を定めて行っている。

〇〇〇〇